

# 時報新報

錢三金價定

刊休日曜日

號二十八百五第

日曜日

日三十月二年七十治明

京東

## 叙任

○明治十七年二月九日  
任文部省少書記官  
全 佐澤 太郎  
全 野村 綱  
全 谷口 直貞  
全 平賀 義美  
全 山田 要吉  
全 宮崎 道正

## 時事新報

外國ノ事態ヲ知ルノ必要(前號ノ續)

支那人ガ國ヲ開テ外國ト交リナガ其外國ノ何物タルヲ知ラズシテ動モスレバ攘夷ノ心相ヲ呈スルノ次第ハ既ニ前號ニ記載シタルレガ、コノ攘夷ノ心相ハ獨リ下流社會ニ現ハル、ノモナラズ現ニ政府ノ要路ニ立テ權機ニ當ル人物ニテモ其心ノ底ヲ叩ケハ總然タル攘夷家多クシテ現時清國政權ノ大部ハ此攘夷家ノ手ニ在ルモノ、如シ昨年ノ秋攘夷主義ヲ以テ有名ナル前兵部尙書彭玉麟ガ左宗棠ノ周旋ヲ以テ新ニ辦理廣東軍務ニ任シタルガ如キモ亦其一證トシテ見ル可キナリ抑モ此彭玉麟ナルモノハ長髮賊討ノ際ニ大功ヲ立テタル人ニシテ文宗皇帝ノ咸豐六年賊軍ノ勢益猖獗、知府江忠濟ハ賊ト戰テ軍ニ死シ布政使羅澤南モ亦敗死シ賊遂ニ江南ヲ陷レ欽差大臣向榮ノ軍ハ敗走シテ丹陽ニ退キ官兵勢急ナルニ當テ玉麟總兵ノ任ヲ帶ヒ會同藩ノ命ヲ奉シテ進ンテ陽湖ニ軍シ賊ノ戰艦積聚ヲ燒テ遂ニ南康府ヲ復シ連戰シテ九江ニ克テ又池州ノ賊據ヲ奪ヘリ穆宗皇帝ノ同治元年ニハ賊ヲ太平府ニ破テ進ンテ金柱關ヲ取リ陳坤清五万ノ軍ヲ邀撃シテ五戰皆ナ勝テ水陸大舉大ニ賊ヲ花山ニ破レリ玉麟ノ軍功斯ク著大ナリシガ故ニ總兵ヨリ兵部侍郎ニ進ミ累遷ニ兵部尙書江南水師提督ノ職ニ登リタリレガ玉麟久シク其職ニ居テ母老イタルヲ以テ連リニ上疏シテ骸骨ヲ乞フ政府優禮シテ固ク之ヲ留メタレト連請已マザルガ故ニ遂ニ其歸養ヲ聽ルシテ慰勞金凡ソ十萬圓ヲ給シタルニ固辭ス因テ沐浴ノ邑ヲ賜ハントシタルト又辭シテ受ケズ掛冠退職ノ後ハ清貧洗フガ如ク家ニ盤石ノ貯ナクシテ策蹻履空シキモ晏如タリ玉麟性太ハ梅花ヲ好ミ興來レバ墨梅ヲ揮寫シテ自カラ遺ル、退職ノ際詩アリ曰ク功成不受封侯券、待向君王乞此身、好伴梅花入山去、借他清操作吾真、ト亦以テ其概ヲ想見スルニ足レリ先是玉麟ノ江南水師提督タルヤ部下統率ノ水師八十萬ト号ス其既ニ職ヲ辭スルヤ妻梅妾鶴其事ヲ高尙ニシテ孤山居士ノ流風ヲ追ヒ復テ世事ヲ顧ミズト雖モ每歲江南水師ノ操練アル毎ニハ蓬髮租服往テ之ヲ傍觀シタリト云フ水師固ヨリ前提督ノ人ト爲リ服ヲ受敬慕視ルコト猶嚴父ノトシ故ニ其貧窮ナルヲ聞クヤ相謀テ醴金ヲ須臾ニシテ五十萬圓ヲ得、之ヲ贈リタレバ玉麟モ其厚意ヲ空ウセズ爾後門生黨實ヲ養ヒ十年一日ノ如ク遂ニ昨年ノ秋ニ至リタリ是時ニ當テ佛國安南ト原テ生シ兵端漸ク開ケタルノ報忽テ清國ニ達シタル支那一般ノ公論ハ安南中國所屬之邦ナリ佛國ナレバ一歩モコレニ立入ラシム可ラズトテ物議

紛々タル其際ニ清國軍人ノ公望ハ唯玉麟ノ一身ニ集マリ玉麟出テズンハ蒼生ヲ奈何セント異口同音ニ唱ヘシカバ左宗棠ハ之ヲ舉ケテ遂ニ辦理廣東軍務ノ職ニ任シタリ然レニ玉麟ハ素ヨリ攘夷第一流ノ大家ニシテ途ニ外國人ニ逢ヘハ羽扇ヲ以テ面ヲ掩ヒ見ザルマデテ過ルヲ常トスル程ノ次第ナレバ一旦廣東ノ軍務ヲ辦理シテ同地方最上ノ兵權ヲ握テヨリ事ニ觸レテ攘夷ノ政略ヲ施シ近頃ニ至テハ廣東港口ノ水底ニ水雷火ヲ裝置シテ敗船ヲ沈没シ一朝ノ不虞ニ備ヘシレバ入港ノ船艦モ海氣味惡ク居留地ノ外國人ニ至テハ昨年九月ノ暴動ト云ヒ又近頃ノ様子ト云ヒ前ヲ推シテ後ニ掛念スレバコレヲ默々ニ付ス可ラズトテ早速北京政府ニ向ヒ昨秋ノ一事ニテモ明白ナルガ如ク清政府ノ居留外國人ヲ保護スルハ未ダ完全ナリト云フ可ラズ縱ヒ政府ノ意ニ非ザルモ若シ暴徒アリテ我居留地ヲ襲撃セバ我々ノ安危朝夕ヲ保テズ故ニ清政府ハ我々ニ向ヒ自國ノ兵艦士卒ヲ以テ我居留地ヲ守ルヲ許スカ、左ナクバ一旦損害アラバ政府之ヲ償フカ、二者其一ヲ擇ハレタシト嚴ニ掛合テ附ケタレバ北京政府モ返答ニ因シ先ツ彭玉麟ノ許ニ沙汰シテ今度水雷火裝置港口選格ノ事ハ其底意孰レニ在ルヤト一應ノ見込ヲ尋テタルニ老將軍ハ之ニ答ルニ唯一言ヲ以テシテ云ク將帥外ニ在ルハ君命モ聽カザル所アリト傍若無人殺風景ノ有様ニシテ政府モ殆ンド因シ果テ左宗棠モ初メハ之ヲ推舉シタルモノ、今ハ玉麟ノ頑固ニ呆レ之ヲ持テ利シ居ルト云フ然リト雖モ玉麟ノ名望ハ李鴻章左宗棠ヲ始トシテ天下其右ニ出ズルモノナク此ハ八ノ爲メニ死シ願フモノハ其幾日千方ナルコト知ラズ特ニ皇太后ノ寵遇モ厚ケレバ容易ニ其位地ヲ動カスコト能ハザル可シ斯カレ攘夷家ヲシテ廣東ノ如キ外國貿易ノ要地ニ久シク大權ノ柄ヲ執ラシメタラバ今後外交上ニ關シテ如何ナル格事ヲ惹キ起ス可キヤ或ハ第二ノ林則徐タルコトナキチ必ス可ラズ畢竟外國ト交際シテ其事態ヲ知ラザルノ罪ニシテ今日支那國外交上ノ安危ハ恰モ一髮千鈞ヲ引クノ觀アリト云フモ可ナリ我輩ハ支那ノ近事ヲ見ルニ付ケ我邦士人ノ能ク其覆轍ヲ蹈マザルコトヲ喜ビ我邦一般ノ人民チシテ隣人ノ過ヲ見テ愛コ自カラ嗟ミル所アラシムント欲スルナリ

## 雜報

○御參拜 皇太后宮ニは孝明天皇ノ御陵ヘ御參拜ノ爲メ來月十五日頃東京御發禁にて陸路東海道を西京御所ヘ行啓遊ハされ同所ヘ五十日間程御滞在の御豫定ある由仄々に承る

○參内 大山陸軍卿ハ念來る十六日發の佛國郵船にて歐州ヘ赴くを以て同卿并隨行官の人々は昨日午前十時御暇乞として赤阪假皇居ヘ參内謁見仰付られ同卿及上官の向死ハ御陪食の榮ト辱ムシ其他ヘ酒饌を賜はり且實所參拜をも仰付られり

○國書捧呈 在佛國特命全權公使ハ西班牙國駐紮特命全權公使を兼任國に赴き同月十四日其頃の紙上に掲げ一時半頃式部頭並差廻され公使の乗リて馬車着し御庭内にて謁見室に入長及宮内卿並列す親しく臣に命じ陸軍省並貴國の爲め存立する所の交際を欲するの旨を以ての國書を捧呈せしに天皇陛下ヘ西國大勳を紹介せしに皇帝一召見仰付けらるゝ等式全く畢れり歸路は皇帝皇后より公使夫内にて内謁見所に入り子に賜り英語又は佛語して退坐し更にサレりて皇太后后に謁見コお告げ退出したり

○伊國王 日耳曼皇土にお伯林府ヘ來遊の儀ありとのと

○故宮御住地 下公御住居地三千百六十實愛若ヘ下賜成りたる

○樺山君席次 同君にの儀ハ前任陸軍少將官軍省ヘ遷せられ同省より拜命 太政官御用掛